# 「大丈夫」のコミュニケーション上の特質
## ―語用論の観点からの分析―

# Communicative Characteristic of “Daijobu”
## ―Analysis from the perspective of pragmatics―

文学研究科国際言語教育専攻修士課程修了
遠　藤　李　華
**Rika Endo**

## Ⅰ．はじめに

近年、用法が拡張し、多様な機能を担うようになってきている言葉の一つに「大丈夫」という表現がある。「大丈夫」は本来、「心身ともにすぐれた立派な男子」という意味を表す名詞だったものが、室町以降「しっかりしているさま、危なげがなく安心できるさま」を表す形容詞としての用法を獲得した。そして、現在は「問題ない、心配ない」という意味でも用いられるようになった。さらに最近は、「コーヒーで大丈夫ですか」「レシートは大丈夫ですか」「（レシートを渡されて）大丈夫です」のように従来の意味と相違して用いられるようになってきている。これらの「大丈夫」は、「よろしいですか」「ご利用ですか」「結構です」といった言葉の代わりに多用されているのである。

こうした用法は一部の辞書でも言及されており、『大辞泉』第二版（2012）には「必要または不要、可または不可、諾または否の意で相手に問いかける、あるいは答える用法が増えてきている」という説明がみられた。

本稿では、このような「大丈夫」の多様な機能について、語用論の観点から分類、分析したうえでコミュニケーション上の特質について検討することを目的としている。そこで、本稿では、次の 3 点を中心に論じる。

ⅰ．「大丈夫」がどのような発話機能において用いられているのか
ⅱ．新たな用法の「大丈夫」はどの程度使用されているのか
ⅲ．外国人用日本語教材では、どのように「大丈夫」が扱われているのか

## Ⅱ．先行研究と問題の所在

「大丈夫」の新たな用法をめぐっては、使用意識や印象についてアンケート調査などがこれまでいくつか行われてきた。例えば、塩田・井上・滝島（2015）では「おかわりは大丈夫ですか」といった

提供の場面、尾崎（2016）では「ソースをかけても大丈夫？」と尋ねる場面および「(店員からお茶のおかわりを勧められて）大丈夫です」と断る場面、菊池（2018）では、「(店員からお箸をつけるかどうか聞かれて）大丈夫です」と断る場面について、使用頻度を調査している。しかし、これらの研究は、検証している用法が限定的なものであり、調査が不十分であると考える。

山下（2013）、竹下（2014）は「大丈夫」が発話される多種多様な場面を挙げ、「大丈夫」の用法について考察している。本章では、山下（2013）と竹下（2014）を中心に問題の所在を明らかにする。

## 1. 山下（2013）の機能分類

【相手のニーズを尋ねる】【相手の都合を尋ねる】【相手の状況の良し悪しを尋ねる】
【自分の不都合がないか尋ねる】【自分の要求に対する許可を願う】【断り】

山下（2013）は、「大丈夫です」を上記 6 つの機能に分類し、それぞれの場面において、年齢、性別、仕事経験の有無により、使用意識「自分自身が使うかどうか」「ほかの人が使うのを聞いて気にならないかどうか」が異なるかどうかを検証している。

調査の結果、性別や仕事経験の有無では差が見られなかったが、相手に対して負担になるような【許可願い】【断り】では、若者層の使用率が高いことがわかった。これについて山下（2013）は、ポライトネス理論で議論されるフェイス侵害行為を緩和する働きがあるためだと考えている。

しかし、山下（2013）の機能は、応答における「大丈夫」が【断り】の 1 つのみであり、網羅的とは言えない。『大辞泉』第二版（2012）にもあるように、応答としての「大丈夫」は「断り」だけではなく「可能」や「承諾」の意味でも用いられると言える。

## 2. 竹下（2014）の機能分類

〈許可求め〉〈許可求めー許可〉、〈依頼〉〈依頼ー許可〉、〈誘いー承諾〉〈誘いー断り〉
〈申し出ー断り〉、〈勧めー断り〉

竹下（2014）は、辞書で指摘されていた「大丈夫」の用法を上記の 5 つの発話タイプに分け、辞書で指摘されていなかった用法として「拒否」「可能」を挙げている。そして、「大丈夫」が多用される要因について、17 種類の対人場面を想定させたうえで、「大丈夫」の理解度・使用率・印象の調査を行い検討している。調査の結果、「大丈夫」の意味は世代に関係なく広く理解されているが、使用率・印象は世代によって異なる結果となった。

しかし、竹下（2014）が挙げた発話タイプ以外にも「大丈夫」の用法や機能があるように思われる。たとえば、提供の際に用いる「コーヒーのおかわりは大丈夫ですか」や、感謝や謝罪に対する「大丈夫です」は竹下（2014）の発話タイプには当てはまらない。このような応答の「大丈夫」も検討する必要があるのではないか。

以上述べたように、山下（2013）と竹下（2014）の分類は網羅的とは言えず、不十分であると考える。そこで、本稿では多種多様な機能を設定し、「大丈夫」のどのような機能が、どの程度使用されているのか明らかにしていきたい。

## Ⅲ.「大丈夫」の示唆するもの

「大丈夫」の機能を検討するに先だって、まず「大丈夫」という言葉がもつ本質について明らかにしておきたい。そして、「大丈夫」が多用される要因について考察する。

### 1.「大丈夫」の本質：文脈否定

「大丈夫」の本質的機能は、単独で意味をなさず、文脈上にある心配事や問題となる要素を否定する「文脈否定」であると言える。たとえば、「この建物は丈夫です」は単独で成立しているが、「この建物は大丈夫です」という文は単独では成立しない。それは、「地震がきても」や「何年経っても」など、文脈上にある心配要素を意味的に「問題ない」と否定する形で「この建物は大丈夫です」が使われるからである。

### 2.「大丈夫」が用いられる要因：ポライトネス

新しい用法の「大丈夫」は、相手に対する配慮として用いられていると考える。そこで、Brown, P. & Levinson, S.（以下、B&L）のポライトネス理論を援用し、配慮として用いられる「大丈夫」について理解を図る。B&L（1987）は、人はだれでも、「他者に受け入れられたい、好かれたい」という欲求（＝ポジティブフェイス）と、「自分の領域を他者に邪魔されたくない」という欲求（＝ネガティブフェイス）を持っているという。そして、大抵のコミュニケーションにおいて、これらの欲求を脅かす行為を行っており、これを「フェイス脅かし行為（Face-threatening act 以下、FTA）」と呼んでいる。そこで、人はなるべくフェイスを脅かさないように配慮した言語行動「ポライトネス」を行う。ポジティブフェイスに配慮した補償行為がポジティブポライトネス、ネガティブフェイスに配慮するのがネガティブポライトネスである。

近年見られる「大丈夫」は、FTA を行わないように配慮する、ポライトネスとして用いられている場合があると言える。たとえば、A が手伝いを申し出て、B がそれを断る場合、B の断りは、手伝いを申し出た A の好意を無下にすることになり、A のポジティブフェイスが脅かされる。さらに、A の手伝うという行為が妨げられたことで A のネガティブフェイスも脅かされる。そこで、ポライトネスとして「（気遣っていただかなくても）大丈夫」を用いて断ることで、B は A の心的負担を軽減することができるのである。近年、このような配慮の気持ちからポライトネスとして「大丈夫」を用いる人が増え、多用されるようになったのではないか。

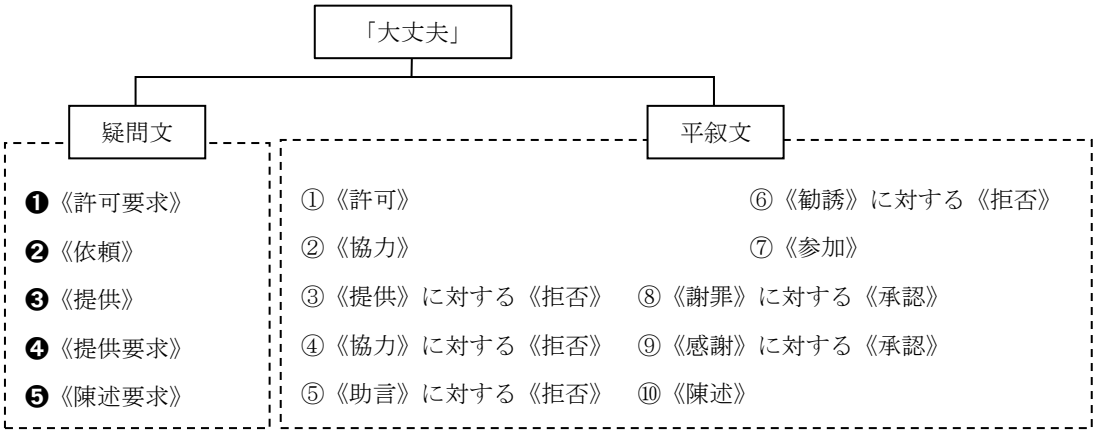
「大丈夫」は、大きな心配事や問題を否定しているだけではなく、「相手に失礼かも」「相手に迷惑

をかけるかも」といった心的負担まで心配要素や問題として捉え、それを否定している。そのため、心配要素が、従来の程度より薄い場面においても用いられていると言えるのである。さらに、そのような心的負担を「大丈夫」で否定することで、相手に配慮しているのである。

## Ⅳ．発話機能による分類

本章では、発話機能の枠組みで新たな「大丈夫」の用法を分類する。発話機能とは「話者がある発話を行う際に、その発話が聴者に対して果たす対人的機能を概念化したもの」（山岡 2008:2）を言う。山岡（2008）の発話機能を参考に、近年見られる「大丈夫」が、どのような場面や用法で用いられているのか、〈疑問文〉〈平叙文〉の 2 つの視点から発話機能別に分類し、「大丈夫」が持つ機能の意味特徴を分析する。図 1 は「大丈夫」の発話機能における分類を図式化したものである。

**図 1　「大丈夫」の発話機能における分類**




次に、文脈否定とポライトネスの観点から「大丈夫」の発話機能の用例を一つ一つ分析していく。ただし、ここでの機能分類には、辞書に記載されている一般的な用法「危なげのない」「しっかりしている」を含めないものとする。なお、用例は筆者が見聞きしたものか筆者の作例である。（下線は筆者によるものである。）

❶《許可要求》

(1)（友人に対して）ペンを借りても大丈夫？

［言い換え］ペンを借りても問題ないか

［文脈否定］「ペンを貸せないかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

［ポライトネス］聴者に《許可》をさせるため、それが聴者に負担をかける（聴者の N FTA[1]）
聴者が《許可》しなければ、話者をがっかりさせてしまう（聴者の P FTA[2]）

❷《依頼》

(2)（通りすがりの人に対して）すみません、写真撮ってもらっても大丈夫ですか。

［言い換え］写真を撮ってもらっても問題ないか

［文脈否定］「撮影が負担になるかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

［ポライトネス］聴者に《協力》をさせるため、それが聴者に負担をかける（聴者の N FTA）
聴者が《許可》しなければ、話者をがっかりさせてしまう（聴者の P FTA）

❸《提供》

(3)（店員が客に対して）コーヒーのおかわりは大丈夫ですか。

［言い換え］コーヒーのおかわりは必要ないか（おかわりを出さなくても問題ないか）

［文脈否定］「おかわりしたくないかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

［ポライトネス］話者が聴者に聞く行為が聴者にとって負担となる（聴者の N FTA）

❹《提供要求》

(4)（客が店員に対して）保冷剤つけてもらっても大丈夫ですか。

［言い換え］保冷剤をもらっても問題ないか

［文脈否定］「つけてもらえないかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

［ポライトネス］聴者に《提供》をさせるため、それが聴者の負担となる（聴者の N FTA）
聴者が《提供》をしなければ話者をがっかりさせてしまう（聴者の P FTA）

❺《陳述要求》〈可能〉

(5)（外国人の友人に対して）それ、わさび入ってるけど、大丈夫？

［言い換え］わさびを問題なく食べることができるか

［文脈否定］「食べられないかもしれない」という心配要素を否定するかどうか聞く

［ポライトネス］聴者にできるかどうか答えさせるため、聴者の負担となる（聴者の N FTA）

※ここでの《陳述要求》は可能かどうか陳述を求めるという意である。

①《許可》

(6)（友人の料理が先に届いたとき）先に食べても大丈夫だよ。

［言い換え］先に食べても問題ない

［文脈否定］聴者の「先に食べたら失礼かもしれない」という心配要素を否定している

[1] Negative Face-Threatening Act（ネガティブフェイス脅かし行為）
[2] Positive Face-Threatening Act（ポジティブフェイス脅かし行為）

［ポライトネス］《許可》は相手に借りを背負わせるため、聴者の負担となる（聴者の N FTA）

②《協力》

(7)（わからない問題を教えてほしいという友人に）大丈夫だよ。

［言い換え］相手が分からないという問題を教えても、自分は問題ない

［文脈否定］聴者の「負担になるかもしれない」という心配要素を否定している

［ポライトネス］教えることで、聴者に借りを背負わせる（聴者の N FTA）

③《提供》に対する《拒否》

(8)（飲み物を勧める店員に）大丈夫です。

［言い換え］飲み物の提供を受けなくても問題ない（＝飲み物は必要ない）

［文脈否定］聴者の「飲み物がほしいかもしれない」という心配要素を否定している

［ポライトネス］《提供》を受け入れないため、聴者をがっかりさせてしまう（話者の P FTA）

《提供》を受け入れてもらえなかったと感じる（聴者の P FTA）

仕事の一環として行った《提供》が成立できなかった（聴者の N FTA）

④《協力》に対する《拒否》

(9)（手伝おうとする駅員に）あ、大丈夫です。

［言い換え］手伝わなくても問題ない（＝手伝う必要はない）

［文脈否定］聴者の「手伝った方がいいかもしれない」という心配要素を否定している

［ポライトネス］《協力》を受け入れないため、聴者の好意を無下にしてしまう（話者の P FTA）

《協力》が受け入れてもらえなかったと感じる（聴者の P FTA）

《協力》したいという気持ちを邪魔された（聴者の N FTA）

⑤《助言》に対する《拒否》

(10)（勉強した方がいいと言う友人に）いや、大丈夫、大丈夫。

［言い換え］勉強しなくても問題ない（＝勉強する必要はない）

［文脈否定］聴者の「勉強した方がいいかもしれない」という心配要素を否定している

［ポライトネス］《助言》を受け入れないため、聴者を嫌な気持ちにさせてしまう（話者の P FTA）

《助言》を聞いてもらえなかったと感じる（聴者の P FTA）

《助言》を妨げられたという（聴者の N FTA）

⑥《勧誘》に対する《拒否》

(11)（友人に映画に誘われて）あー、私は大丈夫だよ。

［言い換え］映画を見に行かなくても問題ない、相手が自分を誘わなくても問題ない

［文脈否定］聴者は話者が「見に行きたいかもしれない」という心配要素を持っていると想定し、そ

の想定を否定している

［ポライトネス］《勧誘》に応えられないため、聴者をがっかりさせてしまう（話者の P FTA）

《勧誘》を断られてしまったと感じる（聴者の P FTA）

「映画を見る」という行為を話者と出来なくなった（聴者の N FTA）

⑦《参加》

（12）（友人に食事に誘われて）うん、大丈夫だよ。

［言い換え］一緒に映画を見に行っても私は問題ない

［文脈否定］聴者は話者が「見に行けないかもしれない」という心配要素を持っていると想定し、その想定を否定している

［ポライトネス］「自分の都合に合わせてしまう」という借りを背負わせる（聴者の N FTA）

⑧《謝罪》に対する《承認》

（13）（遅れて謝る友人に）大丈夫、大丈夫。

［言い換え］気に病む必要はない

［文脈否定］聴者の「遅れて迷惑をかけてしまった」という心配要素を否定している

［ポライトネス］聴者の心理的負担を軽くし、借りを小さくしてしまう（話者の N FTA）

聴者は話者に借りを小さくさせたという負い目を感じる（聴者の N FTA）

⑨《感謝》に対する《承認》

（14）（お金を貸したことに対してお礼を言う友人に）大丈夫だよ。

［言い換え］負担に思う必要はない

［文脈否定］聴者の「借りて迷惑をかけてしまった」という心配要素を否定している

［ポライトネス］聴者の心理的負担を軽くし、借りを小さくしてしまう（話者の N FTA）

聴者は話者に借りを小さくさせたという負い目を感じる（聴者の N FTA）

⑩《陳述》〈可能〉

（15）（先生・上司に英語が出来るか聞かれて）話すのはあんまり…。

書くのなら大丈夫だよ。

［言い換え］英語を問題なく書くことができる

［文脈否定］聴者の「話者は英語ができないかもしれない」という心配を否定している

［ポライトネス］できると答えるため自慢のように聞こえる（話者の P FTA／聴者の N FTA）

※ここでの《陳述》は可能であると陳述するという意である。

このような「大丈夫」の新たな用法は、辞書においては俗語扱いされているのが現状ではあるが、配慮機能が強く表れる表現の用法は次第に慣習化していく傾向にあるため、いずれ定着し、正用とし

て認知されるようになると予想される。

図 2 は「大丈夫」の原義からポライトネスへの移行のプロセスを図式化して示したものある。原義とポライトネスとの関係性から、大きく①非配慮、②配慮拡張、③配慮特化の 3 種類に分類することができる。原義が完全に喪失した【近年見られる新たな用法】は、まさに配慮機能に特化した用法ということである。そして、このような用法の慣習化は、「大丈夫」が配慮表現であることを示唆する。配慮表現とは、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現」（山岡ほか 2018:159）である。

**図 2　「大丈夫」の原義とポライトネスとの関係性**

| | 原義 | ポライトネス | 分類 |
|---|---|---|---|
| 【従来の用法】<br>この建物は地震が来ても大丈夫です | 危なげのない<br>しっかりしている | | ＝①非配慮 |
| | ↓ | | |
| 【変化した用法】<br>お身体は大丈夫ですか | 問題・心配ない | 緩和 | ＝②配慮拡張 |
| | ↓ | ↓ | |
| 【近年見られる新たな用法】[3]<br>（申し出に対して）大丈夫です〈不要〉<br>試着しても大丈夫ですか〈諾 or 否〉<br>（試着しても）大丈夫です〈諾〉 | 低程度で<br>問題・心配ない | 緩和 | ＝③配慮特化 |

## Ⅴ.「大丈夫」の使用頻度調査

### 1. 調査概要

本研究では 2017 年 6 月 26 日から 7 月 5 日にかけて、10 代から 50 代以上の日本人を対象に「大丈夫」についてアンケート調査を行った。

調査方法は、前章で分類した 15 種類の発話機能について、発話の相手（親疎関係）によって「大丈夫」「いい（よろしい）」をどの程度使うと認識しているか、「よく使う／時々使う／使わない」から回答してもらった。有効回答は、331 名であり、男性 84 名、女性 247 名と男女差が非常に大きいため、男女差については言及しない。また、各地域で同数の回答が得られたわけではないため、地域差や「大丈夫」の新用法の広がり方についての考察も行わない。性別・年代の内訳を表 1 に、出身を表 2 に示す。

[3] 『大辞泉』第二版（2012）に記載されていた新たな用法

**表 1　性別・年代**

| | 男 | 女 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 10 代 | 23 | 53 | 76 |
| 20 代 | 31 | 145 | 176 |
| 30 代 | 13 | 3 | 16 |
| 40 代 | 4 | 16 | 20 |
| 50 代以上 | 13 | 30 | 43 |
| 合計 | 84 | 247 | 331 |

**表 2　出身**

| | |
|---|---|
| 北海道地方 | 12 |
| 東北地方 | 11 |
| 関東地方 | 128 |
| 中部地方 | 36 |
| 近畿地方 | 46 |
| 中国地方 | 19 |
| 四国地方 | 3 |
| 九州・沖縄地方 | 76 |

『学研現代新国語辞典』第五版（2012）、『三省堂国語辞典』第七版（2014）、『現代国語例解辞典』第五版（2016）には、「大丈夫」が「よろしい」「よい」の意味で使われていると記述されている。一方、金田一（2013）は「いい」は積極的な肯定であるのに対して、「大丈夫」は否定的な意味合いを持っており、「危険ではない、問題ではない、心配ではない、悪い状態ではない」といったマイナスではない、ほどほどの肯定であると述べている。近年見られる「大丈夫」は、心配要素の程度が薄らいでいるため、「いい」を用いる場面でも「大丈夫」が使われるようになったのではないだろうか。したがって、アンケートでは「いい」と「大丈夫」の使用頻度を比較し、各機能における心配要素の程度について考察する。

また、発話の相手との親疎関係によって使用頻度に違いが見られるかという点も併せて調査を行う。親疎関係は、発話の相手が家族・友人の場合を「親」とし、先輩・先生・上司・見知らぬ人の場合を「疎」とした。アンケートは選択式で設問数は 28 問である。15 種類の機能それぞれの親疎関係を見るため、1 つの機能につき「親」の場合（設問番号奇数）と「疎」（設問番号偶数）の場合を調査した。ただし、本稿では、《陳述要求》を〈可能〉かどうか陳述させる機能、《陳述》を〈可能〉であることを陳述する機能と定めたため、《陳述要求》《陳述》においては、それぞれの親疎関係について言及しないことにした。

設問の発話機能は以下の通りである。設問❶から❾は疑問文における「大丈夫」で、設問①から⑲は平叙文における「大丈夫」である。状況説明の後に続く発話は以下の通りである。《　》は発話機能、【　】は親疎関係を明記している。

**❶ ペン借りても（いい／大丈夫）？《許可要求》【親】**

**❷ すみません、試着しても（いい／大丈夫）ですか？《許可要求》【疎】**

**❸ 駅まで迎えに来てもらっても（いい／大丈夫）？《依頼》【親】**

**❹ すみません、写真撮ってもらっても（いい／大丈夫）ですか？《依頼》【疎】**

❺ ジュースのおかわり、（いい／大丈夫）？《提供》【親】

❻ コーヒーのおかわりは（いい／大丈夫）ですか？《提供》【疎】

❼ 一口もらっても（いい／大丈夫）？《提供要求》【親】

❽ 保冷剤つけてもらっても（いい／大丈夫）ですか？《提供要求》【疎】

❾ それ、わさび入ってるけど、（いいの／大丈夫なの）？《陳述要求》

①（友人の料理が先に届いたとき）先に食べても（いいよ／大丈夫だよ）《許可》【親】

②（煙草を吸いたいと言う先輩・上司に）あ、（いい／大丈夫）ですよ《許可》【疎】

③（問題を教えてほしいと言う友人に）うん、（いいよ／大丈夫だよ）《協力》【親】

④（コピーを頼んだ先生・上司に）はい、（いい／大丈夫）ですよ《協力》【疎】

⑤（おかわりを勧める友人に）あ、（いいよ／大丈夫だよ）《提供》に対する《拒否》【親】

⑥（飲み物を勧める店員に）（いい／大丈夫）です《提供》に対する《拒否》【疎】

⑦（見送ると言った友人に）あ、（いいよ／大丈夫だよ）《協力》に対する《拒否》【親】

⑧（手伝おうとする駅員に）あ、（いい／大丈夫）です《協力》に対する《拒否》【疎】

⑨（勉強したほうがいいと言う友人に）いや、（いいよ、いいよ／大丈夫、大丈夫）

《助言》に対する《拒否》【親】

⑩（早退を勧める先生・上司に）いえ、（いい／大丈夫）です《助言》に対する《拒否》【疎】

⑪（友人に映画に誘われて）あー、私は（いいよ／大丈夫だよ）。

《勧誘》に対する《拒否》【親】

⑫（先生・上司に講演に誘われて）いえ、（いい／大丈夫）です。

《勧誘》に対する《拒否》【疎】

⑬（友人に食事に誘われて）うん、（いいよ／大丈夫だよ）。《参加》【親】

⑭（先輩・上司に飲みに誘われて）ええ。（いい／大丈夫）ですよ。《参加》【疎】

⑮（遅れて謝る友人に）（いいよ、いいよ／大丈夫、大丈夫）。《謝罪》に対する《承認》【親】

⑯（足を踏んで謝る他人に）（いい／大丈夫）ですよ。《謝罪》に対する《承認》【疎】

⑰（お礼を言う友人に）（いいよ／大丈夫だよ）。《感謝》に対する《承認》【親】

⑱（お礼を言う他人に）（いい／大丈夫）ですよ。《感謝》に対する《承認》【疎】

⑲（先生・上司に英語ができるか聞かれて）話すのはあんまり…。

書くのなら（いい／大丈夫）です。《陳述》

## 2. 調査結果

### (1)「いい（よろしい）」「大丈夫」の機能別使用頻度

まず、「いい」と「大丈夫」の使用率を比較し、心配要素の程度について考察する。以下は、日本語母語話者における「いい」と「大丈夫」の使用率をまとめたグラフである。グラフの横軸は設問番号

で、縦軸は回答者の割合を示している。図 3 は疑問文における「大丈夫」、図 4 は平叙文における「大丈夫」のグラフである。○は「よく使う」「時々使う」と回答した人で、×は「使わない」と回答した人である。

**図 3　日本語母語話者における「いい」と「大丈夫」の使用率【疑問文】**

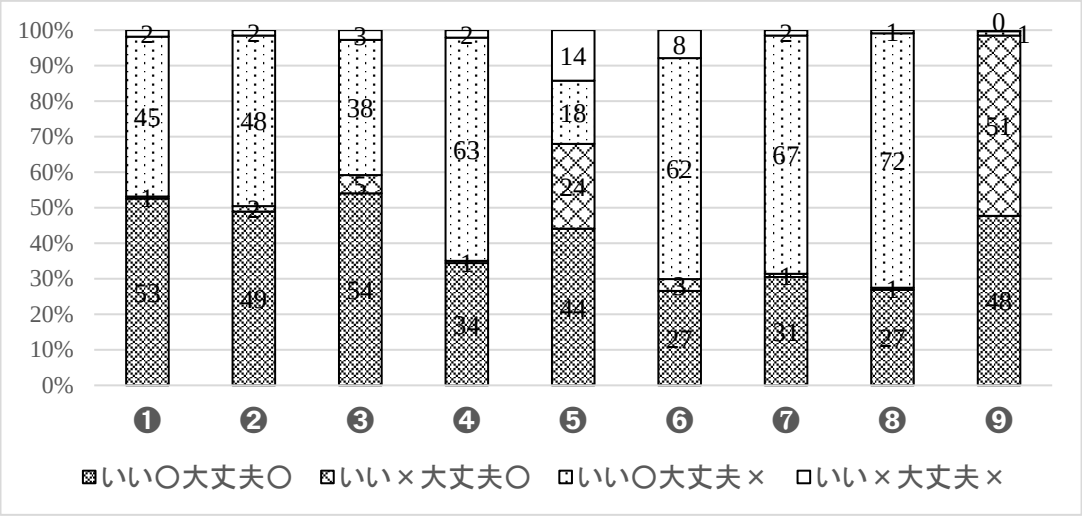
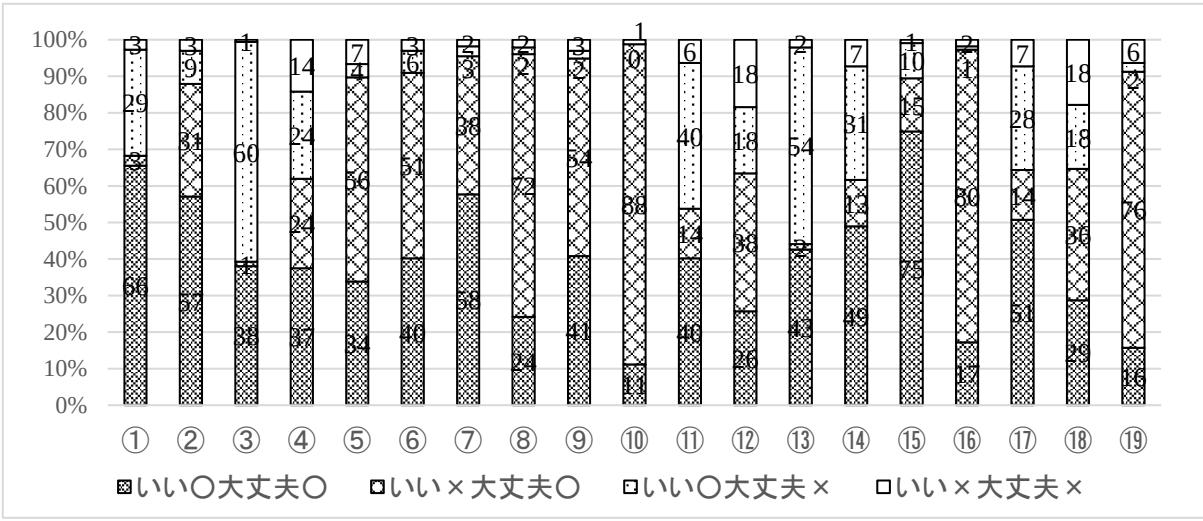



**図 4　日本語母語話者における「いい」と「大丈夫」の使用率【平叙文】**




調査の結果をまとめると以下の通りである。

・「大丈夫」の使用率が 70%以上かつ、「いい」より「大丈夫」の使用率が高い機能を「心配要素の程

度が強い機能」と定める[4]。「心配要素の程度が強い機能」は次の 5 つである。

②《許可》【疎】

⑤-⑥《提供》に対する《拒否》

⑦-⑧《協力》に対する《拒否》

⑨-⑩《助言》に対する《拒否》

⑯《謝罪》に対する《承認》【疎】

・疑問文における「大丈夫」は、親しい人に用いられる傾向があり、平叙文における「大丈夫」は、親しくない人または目上の人に用いられる傾向がある。

これは、目上の人に対して「よろしいです」と許可をしたり、「結構です」と断ったりすることに抵抗を感じる人が多いことから、「大丈夫」を代わりに用いていると考えられる。そのため、平叙文では目上の人に対して「大丈夫」の使用頻度が高くなったのではないだろうか。

### (2)「大丈夫」の年代別使用頻度

次に、年代別の「大丈夫」の使用率について調査結果を述べる。以下は、「大丈夫」を「よく使う」「時々使う」と回答した人の割合を年代別にまとめた表である。

**表 3　年代別の「大丈夫」の使用率**

| | 10 代<br>（76 名） | 20 代<br>（176 名） | 30 代<br>（16 名） | 40 代<br>（20 名） | 50 代以上<br>（43 名） |
|---|---|---|---|---|---|
| 疑問文「大丈夫」 | 56% | 52% | 51% | 39% | 36% |
| 平叙文「大丈夫」 | 83% | 80% | 72% | 62% | 60% |
| 全体の使用率 | 74% | 71% | 65% | 55% | 52% |

[4]❾《陳述》⑲《陳述》は、「いい」のみを用いる確率は低いが、それは〈可能〉の意味で「大丈夫」が用いられているからであるため、「いい」との関連については言及しない。

**表 4　年代別の「大丈夫」の使用率（各設問）**

| 機能・用法 | 親疎 | 10 代 | 20 代 | 30 代 | 40 代 | 50 代以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ❶《許可要求》 | 親 | 61% | 56% | 63% | 35% | 35% |
| | 疎 | 59% | 55% | 44% | 45% | 23% |
| ❷《依頼》 | 親 | 62% | 63% | 56% | 55% | 44% |
| | 疎 | 42% | 36% | 25% | 30% | 26% |
| ❸《提供》 | 親 | 74% | 74% | 94% | 50% | 30% |
| | 疎 | 34% | 31% | 19% | 20% | 28% |
| ❹《提供要求》 | 親 | 36% | 32% | 38% | 10% | 28% |
| | 疎 | 39% | 27% | 31% | 5% | 16% |
| ❺《陳述要求》 | | **100%** | **99%** | **94%** | **100%** | **95%** |
| ①《許可》 | 親 | 78% | 75% | 63% | 40% | 40% |
| | 疎 | **91%** | **93%** | **81%** | **75%** | **70%** |
| ②《協力》 | 親 | 46% | 41% | 38% | 15% | 33% |
| | 疎 | 82% | 66% | 50% | 40% | 26% |
| ③《提供》に対する《拒否》 | 親 | 96% | 96% | 88% | 65% | 65% |
| | 疎 | 96% | 98% | 88% | 70% | 63% |
| ④《協力》に対する《拒否》 | 親 | **99%** | **100%** | **88%** | **85%** | **79%** |
| | 疎 | **99%** | **98%** | **94%** | **85%** | **91%** |
| ⑤《助言》に対する《拒否》 | 親 | **95%** | **97%** | **100%** | **90%** | **86%** |
| | 疎 | **100%** | **99%** | **94%** | **95%** | **100%** |
| ⑥《勧誘》に対する《拒否》 | 親 | 68% | 61% | 38% | 15% | 23% |
| | 疎 | 75% | 71% | 69% | 30% | 26% |
| ⑦《参加》 | 親 | 42% | 44% | 44% | 65% | 37% |
| | 疎 | 70% | 64% | 56% | 50% | 44% |
| ⑧《謝罪》に対する《承認》 | 親 | **95%** | **89%** | **94%** | **90%** | **79%** |
| | 疎 | **100%** | **98%** | **88%** | **100%** | **91%** |
| ⑨《感謝》に対する《承認》 | 親 | 68% | 69% | 56% | 50% | 47% |
| | 疎 | 79% | 68% | 56% | 30% | 44% |
| ⑩《陳述》 | | **91%** | **91%** | **88%** | **90%** | **93%** |

調査の結果は以下の通りである。

・「大丈夫」の使用率は 10 代、20 代が最も高く、年代が高くなるほど低下していく。

・どの年代においても、疑問文より平叙文に「大丈夫」が用いられやすい傾向がある。

・「大丈夫」の使用率がすべての年代において 70%以上の機能を「定着している機能」と定める。「定着している機能」は次の 6 つである。

❺《陳述》

②《許可》【疎】

⑦-⑧《協力》に対する《拒否》

⑨-⑩《助言》に対する《拒否》

⑮-⑯《謝罪》に対する《承認》

⑩《陳述》

## Ⅵ. 日本語教育における「大丈夫」

本章では、「大丈夫」の持つ機能が日本語教育でどのように扱われているのか、初級から中級までの外国人用日本語教材を調査し、教材に見られた用例を発話機能別に分類する。さらに、日本語教育において、どのように「大丈夫」を指導していくべきか提案する。

### 1. 日本語教材別に見た「大丈夫」

本論文で分析する日本語教材は、初級から中級のレベルを対象とした以下の 13 種 35 冊である。( ) 内は本論文で用いる略称である。

・『初級日本語 げんき Ⅰ・Ⅱ』(『げんき』)

・『新日本語の基礎 Ⅰ・Ⅱ』(『新日本語』)

・『初級日本語 あゆみ 1・2』(『あゆみ』)

・『いっぽ にほんご さんぽ 暮らしのにほんご教室 初級 1・2』(『暮らし』)

・『みんなの日本語 初級 Ⅰ・Ⅱ／中級 Ⅰ・Ⅱ』(『みんな』)

・『初級日本語 上・下』(『初級』)

・『できる日本語 初級／初中級／中級』(『できる』)

・『まるごと日本のことばと文化 入門／初級 1・2／初中級／中級 1・2』(『まるごと』)

・『NEJ：A New Approach to Elementary Japanese 1・2』(『NEJ』)

・『ひろこさんのたのしいにほんご 1・2』(『ひろこ』)

・『文化初級日本語 Ⅰ・Ⅱ／文化中級日本語 Ⅰ・Ⅱ』(『文化』)

・『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級 1・2』(『生中継』)

・『毎日使えて しっかり身につく はじめよう日本語 初級 1・2』(『はじめよう』)

「大丈夫」は会話文において機能の働きを持つため、会話例が記載されている教材に限定して調査を行った。ただし、中級レベルの教材においては、会話例が記載されていないものが多く見られたた

め、聴解のスクリプトでの会話を調査対象とした。なお、手紙やアナウンスなどの独話で用いられたものや、練習問題や表現文型導入に提示されている用例は調査対象から除外した。表 5 は、教材別「大丈夫」の出現数および、その発話機能について示したものである。

**表 5　教材別「大丈夫」の出現数と発話機能**

| 教科書名 | 出現数 | 機能・用法 |
|---|---|---|
| 『げんき』 | 5 | 《謝罪》に対する《承認》、従来の意味 |
| 『新日本語』 | 4 | 《許可》、従来の意味 |
| 『あゆみ』 | 4 | 《助言》に対する《拒否》、従来の意味 |
| 『暮らし』 | 10 | 《陳述要求》、《許可要求》、従来の意味 |
| 『みんな』 | 5 | 《陳述要求》、従来の意味 |
| 『初級』 | 3 | 従来の意味 |
| 『できる』 | 12 | 《協力》に対する《拒否》、《陳述》、従来の意味 |
| 『まるごと』 | 17 | 《謝罪》に対する《承認》、《陳述要求》、《陳述》、<br>《参加》、従来の意味 |
| 『NEJ』 | 5 | 《陳述要求》、《陳述》、従来の意味 |
| 『ひろこ』 | 1 | 《協力》に対する《拒否》 |
| 『文化』 | 10 | 《許可要求》、《許可》、《協力》に対する《拒否》、<br>《参加》、《陳述》、従来の意味 |
| 『生中継』 | 27 | 《依頼》、《許可要求》、《陳述要求》、《陳述》、《参加》、<br>《協力》に対する《拒否》、従来の意味 |
| 『はじめよう』 | 9 | 《参加》、《陳述要求》、《陳述》、<br>《協力》に対する《拒否》、従来の意味 |
| 合計 | 112 | |

調査した 35 冊の教材で、112 件の「大丈夫」が見つかった。『生中継』においては「大丈夫」の出現数が最も多く、27 件の用例が見られた。その一方、『暮らし１』、『まるごと 初級２／中級２』、『ひろこ１』、『文化中級Ⅱ』の 5 冊には「大丈夫」が 1 件も見つからなかった。《提供》、《提供要求》、《協力》、《提供》に対する《拒否》、《勧誘》に対する《拒否》、《感謝》に対する《承認》における「大丈夫」はどの教材においても扱われていない。

## 2. 発話機能別に見た「大丈夫」

本節では機能・用法別に日本語教材に見られる「大丈夫」の用例をいくつか取り上げて、一つ一つ分析を行う。

【従来の意味】

ここでの、従来の意味とは、「危なげのない」「しっかりしている」「(大きな、明らかな) 問題や心配がない」という典型的な意味を指す。「大丈夫」の出現数 112 件のうち 64 件が従来の意味であり、最も多く扱われている用法であると言える。場面としては、相手の体調や状態を気遣うもの、心配している相手を励ますものが多く見られた。以下に会話例を示す。

(16) みちこ ：メアリーさん、元気がありませんね。
メアリー：うーん。ちょっとおなかが痛いんです。
みちこ ：どうしたんですか。
メアリー：きのう友だちと晩ごはんを食べに行ったんです。
たぶん食べすぎたんだと思います。
みちこ ：大丈夫ですか。
メアリー：ええ。心配しないでください。
(英語翻訳では)
Mary: I went out to have dinner with my friend yesterday.
I think maybe I ate too much.
Michiko: Are you all right?

(『げんき I』12 課)

(17) リー ：ジブリの 新しい えいがを 見に 行きませんか。
マリオ：ええ、でも、日本語が よく わかりませんから……。
リー ：アニメですから、きっと 大丈夫ですよ。

(『暮らし』30 課)

『げんき』は、文法説明が英語で書かれており、語彙や会話の英訳がある教科書であるが、語彙リストに記載されていた「大丈夫」の英訳は「It is okay. / Not to worry. / Everything is under control.」のみで、新たな用法について言及していなかった。

【《陳述要求》・《陳述》】

《陳述要求》・《陳述》の「大丈夫」は、従来の意味に次いで出現数が多く、《陳述要求》は 8 件、《陳述》は 15 件見られた。《陳述要求》は〈可能〉かどうか尋ね、《陳述》は〈可能〉であることを述べる

機能のため、相手の能力を聞く、あるいは自分の能力を述べる場面で多く見られた。以下にその会話例を示す。

(18)　A：どんな料理が好きですか。
　　B：わたしはイタリアンも、中華も、エスニック料理も何でも[A]**だいじょうぶ**です。
　　A：からいものも[B]**だいじょうぶ**ですか。
　　B：はい、[C]**だいじょうぶ**です。

（『NEJ 1』7 課）

(18)B の「だいじょうぶ」は、「あなたは問題なく～できるか」と相手に問いかけている《陳述要求》であり、(18)A・C は「わたしは問題なく～できる」と述べている《陳述》である。「食べることができる」という意味で「だいじょうぶ」が用いられている。

【《許可要求》・《許可》】

調査した教材において、《許可要求》は 5 件、《許可》は 2 件見つかった。これらの機能は、主に相手の都合を聞く場面で見られた。以下に会話例を示す。

(19)　萩原：ワンさん、こんにちは。
　　ワン：あ、先生。
　　萩原：今、**だいじょうぶ**？お食事は？
　　ワン：今、終わったところです。

（『文化初級Ⅱ』29 課）

(20)　ナロン：あのう、会社へ行ってもいいですか。
　　医　者：ええ、**大丈夫**でしょう。

（『新日本語Ⅱ』32 課）

『文化初級』は『新文化初級』の改訂版であり、『新文化初級Ⅱ』29 課にも(19)とまったく同じ《許可要求》の会話が記載されている。さらに、『新文化初級Ⅱ　教師用指導手引き書』には、(19)の「大丈夫」について、「体の具合を聞いているのではなく、今忙しくないかどうか、自分と話す時間はあるかを聞いている」という解説が見られた。

(20)の用例が見られた『新日本語Ⅱ』は、1993 年に出版されており、調査した教材の中で最も古い教材である。その頃から、医者が患者に許可をするような「大丈夫」が用いられていたということがわかる。

【《依頼》】

《依頼》を表す「大丈夫」は『生中継』に 1 件見られた。そのほかの教材では《依頼》の際に「大丈夫」を用いる表現を提示していなかった。以下にその用例を示す。

(21) A：今日の打ち合わせなんですけど。急用が入っちゃって。
B：ええ。
A：それで、悪いんですけど、始まりの時間を 30 分遅らせてほしいんですけど。
**大丈夫**ですか。
B：わかりました。

（『生中継 1』2 課）

自分の行為に対して、相手に要求する《許可要求》はいくつかの教材で取り上げられていたが、相手の行為を要求する《依頼》は上記の 1 件しか見られなかった。また、《依頼》に対する《協力》の「大丈夫」はどの教材も取り上げていなかった。

【《参加》】

《参加》を表す「大丈夫」は、4 種の教材で 6 件見られた。《参加》は勧誘に対して承諾する発話機能のため、相手を誘う場面で用いられる。以下にそれらの会話例を示す。

(22) 王：横浜でサッカーの試合があります。いっしょに行きませんか。
李：いつですか。
王：来週の土曜日です。
李：じゃあ、**だいじょうぶ**です。ぜひ行きましょう。

（『はじめよう 1』4 課）

これは、「行くことは問題ない（＝行ける）」という《参加》を述べている発話であり、聴者の「一緒に行けないかもしれない」という心配要素を、話者が「だいじょうぶ」で否定している。勧誘に対する「大丈夫」は、《参加》だけではなく《拒否》にも受け取れるが、調査した日本語教材に《勧誘》に対する《拒否》の「大丈夫」は 1 件も見られなかった。

【《拒否》】

《拒否》を表す「大丈夫」は、《協力》に対するものが 7 件、《助言》に対するものが 2 件見つかった。前述のように《勧誘》・《提供》に対する《拒否》は 1 件も見られなかった。以下に、「大丈夫」で断っている会話例を示す。

(23)　おにいさんが「あした学校まで車でおくろうか。」と言いました。まゆみさんは「ううん、車でおくらなくても**だいじょうぶ**。まつばづえで行くから。」と言いました。

（『ひろこ２』68 課）

(24)　西　山：カモンさん、ちょっとあの荷物をこっちへ運んで。
　　重いから台車で運んで。
　カモン：はーい。あまり重くないから、台車を使わなくても**大丈夫**だよ。

（『あゆみ１』8 課）

(23)は、「車で送る」といった相手からの《協力》を、「～してもらわなくても問題ない」「～する必要はない」と断っている《拒否》である。そして、聴者の「話者が困っているかもしれない、助けた方がいいかもしれない」という心配要素を、話者が「大丈夫」で否定している。(24)は、「重いから台車で運んだほうがいい」という相手からの《助言》を、「～しなくても問題ない」と断っている《拒否》である。《協力》・《助言》に対する《拒否》は、アンケート調査において、すべての年代で使用率が高く、定着している機能であると言える。そのため、日本語教材においても上述したような用例が見られたと思われる。また、《提供》に対する《拒否》は、10 代から 30 代で約 90%が使用すると回答していたことから、今後定着する可能性があるため、日本語教材においても取り入れていくべき機能であると考える。

『ひろこ』では、従来の意味の「大丈夫」が 1 件もなく、「大丈夫」の導入の用例は(23)の《協力》に対する《拒否》であった。実際の会話では、従来の意味や《陳述要求》《陳述》の「大丈夫」の方が使用頻度は高いため、初めから《拒否》の「大丈夫」を提示するのは効果的な指導とは言い難い。

【《謝罪》に対する《承認》】

「大丈夫」で《謝罪》に対する《承認》の用例は 2 件見られた。日本語教材において《謝罪》の場面は多く見られたが、《謝罪》に対する応答表現まで記載されている教材は一部であった。「大丈夫」で《謝罪》を《承認》していた会話例を以下に示す。

(25)　A：おそく なって、すみません。ちょっと みちに まよって…。
　　B：**だいじょうぶ**ですよ。じゃあ、行きましょう。

（『まるごと 初級１』7 課）

これは、「謝らなくても問題ない」という意味で「大丈夫」が用いられており、《謝罪》を《承認》していると言える。《謝罪》に対する応答の「大丈夫」について解説されているものは見られなかった。

『生中継』の教師用指導参考書にあたる『日本語生中継 教室活動のヒント＆タスク』では、場面と

重要表現を同時に提示し、表現として新たな用法の「大丈夫」が取り上げられているものがいくつか見られた。それらの場面を以下に示す。

・〈失敗した人を励ます表現〉（『生中継２』5 課）
・〈結果を心配している相手を励ます場合〉（『生中継２』5 課）
・〈自分の誘いを断った相手への気遣いの表現〉（『生中継２』9 課）
・〈相手の成功を確信していると言う表現〉（『生中継２』10 課）
・〈相手にいつ（何、どこ）ならいいかと尋ねられた場合〉（『生中継１』9 課）
・〈自分が出した選択肢に相手が同意しない場合〉（『生中継１』9 課）
・〈話してもいいか許可を求める表現〉（『生中継２』2 課）
・「アドバイスを求める表現」（『生中継２』7 課）
・〈申し出を断る表現〉（『生中継１』9 課）

### 3. 日本語教育に対する提言

新たな用法の「大丈夫」をどのように指導すべきか検討する。教科書分析の結果、予想以上に多くの発話機能が日本語教材に見られたが、新たな「大丈夫」の用法について説明している教材は『新文化初級日本語 教師用指導手引き書』『日本語生中継 教室活動のヒント&タスク』の 2 冊であった。その他の教材には、新たな用法の用例は見られるものの、その用例の説明はなされていない。このような用例のみの提示では、コミュニケーションを図るうえで、何らかの支障をきたす恐れがある。だからといって、新たな用法すべてを解説して学習させればよいというわけではないが、少なくとも日本国内にいる外国人には、「大丈夫」が多様な機能において用いられることを理解してもらう必要があるだろう。また、新たな用法は、10 代から 20 代の若年層において使用率が高くなっているため、特に、若年層の日本人との交流の機会が多い留学生への指導が求められる。したがって、日本人に定着している新たな用法を中心に、各場面での「大丈夫」の用法を提示するのが好ましいだろう。どのような意味で用いられているのか理解させた上で、「大丈夫」を使うかどうかは日本語学習者の選択に委ねてよいと考える。

「大丈夫」を提示する際は、「大丈夫」の言葉の意味を教えるのではなく、『日本語生中継 教室活動のヒント&タスク』のように、表現として場面と共に「大丈夫」を提示するのも一つの方法であろう。そして、「大丈夫」が直接的な言葉の代わりに配慮として用いられていることを理解させると効果的だろう。また、勧誘の場面で、応答として「大丈夫」を用いる場合は、《参加》にも《拒否》にも捉えられることを踏まえて、指導する必要がある。たとえば、「大丈夫」の前後に、「はい」「行きましょう」など肯定的な言葉を述べることで《参加》を表し、「いいえ」「いや」「すみません」など否定的な言葉や謝罪を述べることで《拒否》を表すといった説明が必要になると考える。また、表情や視線、身振り、声のトーンなどの非言語やパラ言語的な要素によっても、「大丈夫」の意味が変わることに注意さ

せなければならないだろう。

「大丈夫」は、承諾や拒否を表すことのできる便利な表現に思われるが、使用場面や状況によって、相手に不快な思いをさせてしまったり、反対の意味に受け取られたりする恐れのある言葉でもある。「大丈夫」が表すものは文脈によって多様であり、単純に説明できる言葉ではない。そのため、「大丈夫」を用いやすい場面や文脈を示したうえで、どのような言葉の代わりに用いられているか考えさせ、「大丈夫」を文相当の機能をもった表現として指導していくべきであることを提言する。

## Ⅶ. おわりに

本稿では、「大丈夫」という言葉がどのような発話機能において用いられているか、語用論の観点から分類した。そして、新たな用法の「大丈夫」を、自らの内省においてどの程度使用していると認識しているか意識調査を行い、「大丈夫」という言葉の使用認識の実態を明らかにした。さらに、教科書分析を行い、「大丈夫」の新たな用法の指導法を検討した。

意識調査の結果、「大丈夫」は、文脈上にある心配要素を否定する文脈否定語であるため、相手が自分に対して負っている「失礼かもしれない」「迷惑かもしれない」といった心的負担が大きい場合に、「大丈夫」を用いやすいことがわかった。そして、その心的負担である心配要素を否定することで相手に配慮しているのである。本調査では、心配要素の程度が比較的強く（「いい」＜「大丈夫」）、用法が定着しているといえる（すべての年代において使用率が 70%以上）配慮特化した機能を明らかにした。配慮特化したと言える機能は以下の 4 つである。

⑴あまり親しくない人または目上の人への《許可》

⑵《協力》に対する《拒否》

⑶《助言》に対する《拒否》

⑷あまり親しくない人または目上の人への《謝罪》に対する《承認》

また、「大丈夫」の新たな用法は若者を中心に用いられており、年代が高くなるにつれて「大丈夫」を用いる人が少なくなってきている。これは、若者の日本語に対する細かい使い分けが十分にできなくなっていることが要因の一つに挙げられる。例えば、「結構です」は応答として用いられるが、「レジ袋は結構ですか」という使い方はしない。また、「レジ袋はよろしいですか」と問われたときに、「はい、よろしいです」と答えることはない。しかし、「大丈夫」は、問いかけとしても応答としても用いることができる便利な言葉であるため、多用されやすいのではないだろうか。若者が「大丈夫」を多用する要因は、配慮としてだけではなく、敬語や言葉の使い方に自信がないため、簡単に使える「大丈夫」という言葉で代用しているとも言える。

本調査では、使用頻度の意識調査を行ったが、実際の使用率と近い結果を得るには、自身が普段用いている言葉を記述させるような自由回答式の調査、あるいは、実際に「大丈夫」が発話されるような場面における発話の実態調査を行う必要がある。また、本調査では対象者が 10 代から 20 代に偏っ

たこともあり、世代ごとの使用率の比較も十分なものとはいえなかったため、より詳細に研究を進めることを今後の課題とする。

## 謝辞

この論文の完成から振り返り、研究当初からご指導いただいた山岡政紀先生をはじめとする創価大学の諸先生方に、心からの感謝を申し上げたい。また何より、アンケート調査にともない、友人・知人と創価大学生など、総勢 300 名以上の方にご尽力を賜った。本研究は多くの方々の協力なしには完成しなかった。すべての人に心から感謝を申し上げ、本研究を締めくくることにする。

## 参考文献

尾崎喜光（2016）「『大丈夫です』の用法の拡大に関する研究」『清心語文』（18）ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会、pp.64-52

菊池律之（2018）「日本語母語話者と日本語学習者の使用表現の差異の分析：日本語教育への応用のために―『大丈夫です』『～ぐらい』『かぶる』を中心に―」『天理大学学報』（69）天理大学、pp.1-15

金田一秀穂（2013）『金田一秀穂の日本語用例採集帳』学研教育出版

塩田雄大・井上裕子・滝島雅子（2015）「“お赤飯”“ひと段落”“ロケットが打ち上がる”はおかしいですか～2014 年「ことばのゆれ調査」から②～」『放送研究と調査』（65）NHK 放送文化研究所、pp.38-63

竹下浩子（2014）「『大丈夫』をめぐる考察」

山岡政紀（2008）『発話機能論』くろしお出版

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現―日本語語用論入門―』明治書院

山岡政紀・牧原功・小野正樹（2018）『新版・日本語語用論入門―コミュニケーション理論から見た日本語』明治書院

山下早代子（2013）「今どきの『大丈夫です』―その使用実態(2013)～「大丈夫です」は若者ことばか？～」『明海日本語』(18)明海大学日本語学会、pp.285-312

Brown, P. and S. Levinson (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press.（邦訳：田中典子監訳（2011）『ポライトネス　言語使用における、ある普遍現象』研究社）

## 辞書・辞典

金田一春彦・金田一秀穂（編）（2012）『学研 現代新国語辞典』第五版、学研教育出版

林巨樹・松井栄一（監修）（2016）『現代国語例解辞典』第五版、小学館

松村明（監修）（2012）『大辞泉』第二版、小学館

見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大（編）（2014）『三省堂 国語辞典』第七版、三省堂

**日本語教材**

坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子（2011）『初級日本語 げんき Ⅰ』第二版、ジャパンタイムズ

坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子（2011）『初級日本語 げんき Ⅱ』第二版、ジャパンタイムズ

海外技術者研修協会（1990）『新日本語の基礎Ⅰ 本冊』スリーエーネットワーク

海外技術者研修協会（1992）『新日本語の基礎Ⅰ 教師用指導書』スリーエーネットワーク

海外技術者研修協会（1993）『新日本語の基礎Ⅱ 本冊』スリーエーネットワーク

学校法人天王寺学館 関西外国語専門学校 日本語教育部（2012）『初級日本語 あゆみ vol.1』凡人社

学校法人天王寺学館 関西外国語専門学校 日本語教育部（2013）『初級日本語 あゆみ vol.2』凡人社

スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊』第二版、スリーエーネットワーク

スリーエーネットワーク（2013）『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』第二版、スリーエーネットワーク

スリーエーネットワーク（2008）『みんなの日本語 中級Ⅰ 本冊』スリーエーネットワーク

スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語 中級Ⅱ 本冊』スリーエーネットワーク

東京外国語大学留学生日本語教育センター（2010）『初級日本語 上』凡人社

東京外国語大学留学生日本語教育センター（2010）『初級日本語 下』凡人社

できる日本語教材開発プロジェクト（2011）『できる日本語 初級 本冊』アルク

できる日本語教材開発プロジェクト（2012）『できる日本語 初中級 本冊』アルク

できる日本語教材開発プロジェクト（2013）『できる日本語 中級 本冊』アルク

独立行政法人国際交流基金（2013）『まるごと 日本のことばと文化 入門 かつどう』三修社

独立行政法人国際交流基金（2014）『まるごと 日本のことばと文化 初級 1 かつどう』三修社

独立行政法人国際交流基金（2014）『まるごと 日本のことばと文化 初級 2 かつどう』三修社

独立行政法人国際交流基金（2015）『まるごと 日本のことばと文化 初中級』三修社

独立行政法人国際交流基金（2016）『まるごと 日本のことばと文化 中級 1』三修社

独立行政法人国際交流基金（2017）『まるごと 日本のことばと文化 中級 2』三修社

西口光一（2012）『『NEJ：A New Approach to Elementary Japanese ―テーマで学ぶ基礎日本語― vol.1』くろしお出版

西口光一（2012）『『NEJ：A New Approach to Elementary Japanese ―テーマで学ぶ基礎日本語― vol.2』くろしお出版

根本牧・屋代瑛子・永田行子（2011）『ひろこさんのたのしいにほんご 1』第二版、凡人社

根本牧・屋代瑛子・永田行子（2011）『ひろこさんのたのしいにほんご 2』増補第二版、凡人社

文化外国語専門学校（2000）『新文化初級日本語Ⅰ』凡人社

文化外国語専門学校（2000）『新文化初級日本語Ⅱ』凡人社

文化外国語専門学校（2000）『新文化初級日本語Ⅱ 教師用指導手引き書』凡人社

文化外国語専門学校（2013）『文化初級日本語Ⅰ』改訂版、凡人社

文化外国語専門学校（2013）『文化初級日本語Ⅱ』改訂版、凡人社

文化外国語専門学校（2004）『文化中級日本語Ⅰ』第二版、凡人社

文化外国語専門学校（2014）『文化中級日本語Ⅱ』第二版、凡人社

ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子（2006）『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 1』くろしお出版

ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子（2006）『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 1 教室活動のヒント＆タスク』くろしお出版

ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子（2006）『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 2』くろしお出版

ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子（2007）『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 2 教室活動のヒント＆タスク』くろしお出版

宿谷和子・天坊千明・森桂子（2010）『いっぽ にほんご さんぽ 暮らしのにほんご教室 初級 1』スリーエーネットワーク

宿谷和子・天坊千明・森桂子（2012）『いっぽ にほんご さんぽ 暮らしのにほんご教室 初級 2』スリーエーネットワーク

TIJ 東京日本語研究所（2013）『改訂版 毎日使えてしっかり身につく はじめよう日本語初級 1 メインテキスト』スリーエーネットワーク

TIJ 東京日本語研究所（2013）『改訂版 毎日使えてしっかり身につく はじめよう日本語初級 2 メインテキスト』スリーエーネットワーク